

# 平成24年度第1回「地域教育力推進モデル」セミナー&ガイダンス 〔全体会報告〕

1 日時 平成24年9月10日(月) 13:30～16:30

2 場所 奈良県立教育研究所

3 参加者 市町村教育委員会関係者、小学校、中学校、  
県立学校、学校・地域連携事業関係者、  
県教育委員会事務局関係者 182名



## 4 内容

### (1) 開会あいさつ 奈良県教育委員会 富岡教育長

- 奈良県の教育課題に対して、対症療法としていろいろと取り組んできた。暴力行為や体力等について、一定の結果は出ているが、規範意識については相変わらず良くない結果。「奈良県の子どもたちは約束を守らない」と思われることから脱却することが私たちの使命。
- 「現象」として表れているものには対応できるが、「意識」は伝統・文化に根ざしたもので、相当、根深いもの。
- 中学・高校でいじめのアンケート調査を実施。すべてを出し、それを学校・市町村教委・県教委が協力して、大人が問題をひとつずつ解決していく姿をみることで、「頼りになるのは学校の先生である」という思いを子どもたちが抱いてほしい。
- 規範意識の問題について、学校や先生の力は重要であるが、学校だけでなく、家庭・地域で育まれるものがあることから、昨年、地域教育力サミットを開催。地域コミュニティの一側面である地域教育力について、1回目のサミットで課題を分析し、委員で共有。そして、課題解決の手法として、この方法があるのではと、地域の力を借りて、具体的な取組を小学校4校と中学校1校でモデル的に実施し、成果や課題を整理して全県的に進めていきたい。
- 学校・家庭・地域が問題解決に向かうシステムづくりが必要である。対症療法として人を増やしたとしても、意識を変えることはできない。地域に参画してもらい、地域の大人の力を結集して、子どもの課題にあたっていく。このシステムを「奈良県版コミュニティ・スクール～奈良モデル」として、来年度提示できるよう進めていきたい。「コミュニティ・スクールの奈良モデル」をつくりたい。
- 先日、知事部局が主催した有識者講演会において、文部科学省の板東久美子高等教育局長が「課題解決には、『地域とともにある学校』をめざすのが必然であり、流れである」と話された。文部科学省の示す大きな潮流と県教育委員会の目指す方向はそこまで一致するかという程に一致していた。
- 試行錯誤しないと前に進めない。前に進むのは今しかない。議論して整理することが必要。じっとしては変わらない。課題のあるものは、課題を解決する方向に変えなければならない。いいものは自信をもって残していきたい。
- 子どもは大人の行動を見ている。子どもは大人の鏡である。だからこそ、大人が一生懸命にならないといけない。力が入るのは、システム的に意識を変えること。これは、世の中のシステムを変えること、伝統文化に成り立った子どもたちの意識を変える取組である。どうしても奈良県の子どもの課題解決をつけたい。我々は、規範意識をもたない子どもを育ててはいけない。規範のある子どもに育てたい。子どもは我々の未来である。自分たちの未来のために投資していきたい。「コミュニティ・スクール奈良県版」に賛同していただきたい。

### (2) 「新しい仕組みづくり」について(別紙) 人権・地域教育課 山本課長補佐

### (3) セミナー・講演「地域と共にある学校づくり」

京都市教育委員会事務局指導部学校指導課 西 孝一郎首席指導主事

- 御所南小学校では、平成14年に文部科学省「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究」指定を受け、「子どものため」になる組織づくりを進めた。保護者や地域住民が、活動を通して学校教育に参画することにより、ボランティアが広がり、活動を通して、学校を理解した。
- 地域住民や保護者などの大人が助け合い、力を合わせる姿を子どもたちに見せることが大切。
- 奈良モデルのよさは、①教員の組織(コミュニティ部)と保護者・地域の方々による「学校コミュニティ協議会」でパートナーシップの関係で協働 ②地域の実態により、モデルを設定 ③学校と地域



が双方向に関わり合う関係が生まれる

- 取組を進めるためには、メリットを作り出すことが大切。「人の役に立ちたい」という思いを生かす組織にする。
- 学校運営に保護者・地域住民が参画し、協働して子どものために取り組む学校は、コミュニティ・スクールそのものである。

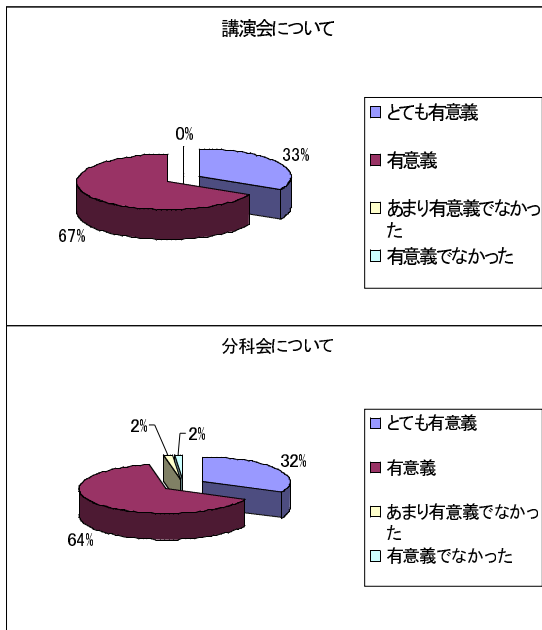
(4) 学校コミュニティの再構成について 人権・地域教育課 奥田課長

- 「地域は学校の応援団」から「パートナーシップ」型の学校運営を目指すものであり、学校長にとっては、新しい学校経営であり、地域にとっては、地域の活性化を図り、地域教育力の向上を目指す仕組みづくり。学校コミュニティ協議会において、教員、保護者、地域住民が当事者意識をもって、一緒に取り組むための熟議を行うことが大切。
- 本年8月の2回目の地域教育力サミットにおいて、「新たな仕組みづくり」の取組を推進することを委員で共有。奈良モデルとして、受け入れやすい考え方の仕組みをつくろうとしてスタートした。
- 学校・地域連携事業は、「新しい仕組みづくり」との関連を図り、「発展型」と位置付け、学校をベースとして、新しい枠組みのものへと、発想転換を図りたい。この考え方は国と同じ方向。
- 「地域と共にある学校」の実現は、後退できない大きな流れ。開かれた学校と叫ばれ、学校評価、改正教育基本法、学校支援地域本部事業、コミュニティ・スクール、新しい公共型の学校づくりに至る保護者や地域住民の意見を学校教育に取り入れる協働の考えは約20年近く一貫した流れ。
- 教職員の発想の転換が出発点。「地域と共にある学校づくり」の視点を学校経営方針で明確化して、校内組織に位置付ける体制整備を行っていただきたい。
- 「地域と共にある学校づくり」の取組が進むと、学校や教員に対する理解が深化し、さらなる教育効果が見込める。学校に対する人の意識が変化して、新たなコミュニティ形成のきっかけにもなる。すばらしい学校には、優れた地域住民のかかわりがある。ぜひ、参画・協働の仕組みへとシフトしていただきたい。

(5) ガイダンス・地域教育力推進モデル校の発表（分科会）

5 実施後のアンケート結果のまとめ

(1) セミナー（講演会）について



〈参加者の声〉

- 「地域と共にある学校づくり」を進めていくことで、学校がかけがえのない存在として、意識的にも実際的にも位置付くことができる大切な方向を示していただいた。
- 教育長の熱意、願いがしっかりと理解できた。新たな取組をするのではなく、今動いている支援活動を組織・再編し、一体化して進めることの大切さを学びました。

〈参加者の声〉

- 今までの研究発表ではなく、地域と共に地道な活動を続け、切り拓こうとしておられる姿から多くを学ぶことができました。
- 先進校の取組の中で、得られた成果や課題を学ばせていただいた。早速、持ち帰り、自分の学校での取組としたいです。

(3) 全体を通して

〈参加者の声〉

- 奈良県にある教育課題を克服していくための、とても大切な方向性を今回の研修で感じることができた。学校の舵取り役の一人として、決してあせらず、学んだことを活かしていくよう努力したい。
- 定期的に、このようなセミナー&ガイダンスを開催してほしい。それぞれの学校や地域で行っていることを改めて再構築し、子どもを育てる意識を再確認できた。
- 県立学校も地域の一員として、地域に愛される学校づくりを考えていかなければならないと考えさせられた。